

# 最近の50年で最も重要な病態！

## ：閉塞型睡眠時無呼吸症候群

◆講師：磯野 史朗 教授 *Prof. Shiro Isono*

(千葉大学大学院医学研究院 麻酔科学/

*Department of Anesthesiology, Graduate School of Medicine, Chiba University)*

◆日時：平成25年7月19日(金) 18:30 *July 19th (FRI) from 18:30*

◆場所：医学教育図書棟 階 第 講義室

*Lecture Room 3, Medical Education & Library Bldg. 4F.*

日時と場所を変更しております。ご注意ください。

*Time & Place has been changed.*

*Please be careful.*

ハリソン内科学書（第17版、2008年）には、閉塞型睡眠時無呼吸症候群（OSAS）を最近50年で認識された最も重要な病態と記述してあります。OSASの最初の症例報告は1956年（NEJM）、OSASの診断基準と疾患概念が提唱されたのは1970年代、nasal CPAP（持続気道陽圧）の有効性が報告されたのが1981年（Lancet）です。この頃まではOSASは高度の肥満患者に著明な日中傾眠を伴う稀な疾患と認識されていました。1990年代にOSASの疫学調査が行われるようになると、この疾患は、①非常に頻度の高い疾患であること、②高血圧、糖尿病、虚血性心疾患などの生活習慣病との関連性が高く、予後を悪化させることが明らかとなりました。OSASは、単なる呼吸器系の疾患ではなく、全身のあらゆる臓器に影響を及ぼす全身疾患であり、その病態研究や治療には様々な医療領域からの集学的アプローチが必要と認識されるようになりました。しかしながら、OSASの重要性は一般診療の現場においては必ずしも十分認識されているとは言えず、依然として多くの未診断の患者があらゆる診療科の医療現場において放置されています。本講演では、OSASの病態生理に基づく診断・治療の現状と将来の展望を、医学研究者や一般臨床医にわかりやすく解説する予定である。

担当：山本 達郎 教授 <麻酔科学>

Prof. Tatsuo Yamamoto <Department of Anesthesiology>

e-mail:[yamamotot@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp](mailto:yamamotot@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp)

医学教務(Student Affairs Section) : [iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp](mailto:iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp)